長洲町立長洲小学校　校長便り　№１０

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和４年５月２４日(火)

【愛語録】　「新しい真理の発見の時は、常に少数派である。それが正しければ多数派になる。」　湯川秀樹

たとえ少数派であっても、真実を見据えて前に進んでいくことができれば、ストレスは感じない。要は課題に対して主体的に積極的に関わっているかどうかだ。やがてそれは真実に近づく。最も避けたい状況は、卑屈になること、他力本願になること、責任を他人に転嫁すること、余計なことを喋り過ぎることだ。正しいと信じて黙々と前に進むことが大切だと思う。

「今をどう生活するか」

子ども達の心や体の変化は毎日接していらっしゃる保護者の皆様が一番ご存知のことと思います。高学年の子供達は、体の変化に伴って心にも微妙な変化が生じてきます。いわゆる思春期という時期です。難しい時期ですが、目標を見つけそれに向かって前進することが出来れば、飛躍的な効果をあげることがあります。しかしながら、物事の本質を見失い、欲や本能だけで行動すると悪い結果を生む時期でもあります。

思春期の典型的な行動パターンを幾つか紹介しましょう。まず、親とは違った価値観を身に付けようとするため、大人への「反抗的態度」が出てきて、ちょっとしたことで怒ったりします。また、オシャレにも気を遣いはじめます。男子も女子も服装には敏感です。周りの友達にどう見られているかは、とても気になることのようです。（私は「ぼうは着ても心は錦」ですが…）髪型も同じです。男子女子ともに、整髪料を使う子もいますね。また、周囲の仲間や大人に認められようとして、自分のキャパシティ以上に頑張るものだから、そのストレスに耐えきれず、不安定さを露呈することもあります。誰もが通る時期ではあるものの、親としては心配な時期でもあります。

やっていることはとても幼いのですが、子ども達は真剣です。でも、そういったことが大人の目からはどのように映るか、自分の将来にどのような影響が出てくるのかを知っておかなければなりません。中学校になって、反抗的な態度ばかりとったり、オシャレに気を遣い過ぎたり、ルールが守れなかったりすれば、高校進学に影響がでてくることもあります。そこをどう伝えるかが、我々の腕の見せ所です。ご家庭の団欒の話題にしてみてはいかがでしょう?

《雑感》最近の社会②

最近の社会②です。私個人としての独り言です。

②大人と子どもの関係の変化

友達のような先生、友達のような親子とか、聞きませんか、こんな話。私が知っている先生（中島小ではありません）の中に、子ども達からニックネームで呼ばれて平気な先生がいたのです。学校での教師と教え子の関係は、師弟関係です。私自身、担任時代はそのような関係性を保ってきました。そしてできる限り我が子と同じように接しているつもりです。だからこそ厳しく接する場面が多かったのでしょう。小学校高学年の精神発達段階で、大人と友達関係のような付き合い方をするのはよくありません。今、縦の社会について学んでおけば大人になって非常に役に立ちます。

④躾＝押し付け?

躾に関する考え方も、最近は少しずつ変わってきていますね。いつかテレビで見たことがあります。それはこんな場面です。「私は自分の子どもを、自由にのびのびと育てています。」これはこれで良いのですが、自由を履き違えてしまうといけません。何でもかんでも自由の中から生まれてくるものではありません。躾やあいさつに代表されるマナーなどは尚更です。私達大人が無理矢理にでも教えていくべきだと思います。文字通り押し付けですが、正しいこと、不易なことは私たち大人が「お躾」していかなければならないと思いませんか?

シリーズ「自分を語る」#１０

小学校1・2年生時はどちらかというとおとなしい感じの澤田少年でしたが、3年生になると生活は一変します。それは一言で言うと、担任の先生の影響です。教師を目指すきっかけとなった先生に担任して頂いたのが小学3年生時でした。勉強を教わった記憶はあまりないのですが、とにかく「学校に行くのが楽しかった」その一言に尽きます。先生に会いに行くために学校に行っていたような気がします。3年生時の経験は、私が子ども達に話す「くだらない話」の中にもよく登場します。学校が楽しかったことに比例して、外に出る機会も多くなり、けがやケンカも多くなりました。3年生時に最も印象に残っていることは、けがです。

ある日、帰宅後すぐにバットとグローブとボールを持って、いつも遊びに行く広場に行きました。残念なことに、その広場には先客がいて使うことができませんでした。仕方なく私達は別の場所に移動しました。そこは、野球をするには少し狭いのですが、ボールを柔らかいものに変えて試合開始。しばらくたって、1年生の打順が回ってきた時のことです。バットの持ち方が違っていたので、私は3年生ですからちょっとお兄さん風を吹かせて、教えてあげようと思い近づきました。その時です。ピッチャーがボールを投げて、それに反応した1年生はバットを振ってしまいました。そのバットは私の額に直撃です。私は頭を押さえながらうずくまりました。どれくらい時間がたったか分からないまま、立ち上がろうとした時、左目の上の部分に激痛が走りました。併せてヌルヌルした感触が伝わってきました。帽子のつばは既に血にまみれていて、帽子を持った手は血だらけだったのです。ようやく立ち上がると、私の顔に血が流れていて、それを見た周りの友達は顔面蒼白でした。まるでプロレスの流血戦のような光景だったそうです。バットを振った1年生は怖くて体を震わせて泣いていたと聞いています。慌てた友達は私の母が働くマーケットに走って呼びに行ってくれました。母は鬼の形相で駆け付けてくれたようでしたが、手にしていたのはトイレットペーパーとキッチンペーパーでした。それを頭にグルグル巻きにして病院へ直行です。笑ってしまいますよね。2～3針縫ったみたいですが、大した傷ではなかったようです。しかし、頭痛がひどかったので、一晩は様子を観察されていました。

今は野球をする場所さえ見つかりません。子ども達の遊び場所の無さは、私達の世代からすれば可愛そうで仕方がありません。世知辛い世の中になってしまいました。あの頃、みんなで遊び場を探して放課後の時間さまよっていたことも、今考えてみると必要だったのかもしれません。問題解決型生活、主体的・協働的生活ができていた最後の年代かもしれないと思っています。工夫したり、改良したり、大事な生活経験ができた時代だったように思います。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）